

遠
2378
85

巽うらみ 琴峰るちの 越後みんみ 三國

曲亭馬琴著

甲申新鐫
六冊合弓

梅櫻對姊妹

歌川豊國画

芝神明前
甘泉堂版

壹

世尊の妙法二世を説く輪回の車の輪の如く坦地滑途あるは又
大の糞のうまでも相環とむとのまほ抑何ぞ二世との未来二世現在
一世過去と合くと二世をままらう身小これ一日の中も二世ありあは
せぬが是未来そのまるとんが現在也志まひ果れは過去とある山言當
前世と今生と後世のまもも二世といへん善悪因果悟初一念未来より
現在もこのあけの過去とまもるとんまらうの過一此種月夜が旅宿の
夜宿を種々時繪の下地筆天田屋野梅が香をとえし彼袖助が二世の
奇談小詞の花を咲せても尚合ある姉妹が二箇巔と重衣富土甲斐を
越後の割外題こりのいじりの方寸の六塵五慾を拉ぐこれ勸善懲
惡の端るるべと自序しとらふ

文政七年甲申春正月新版 曲亭馬琴識



海峽

三三



楠判官申ス

法令
凡天下國家多治九經
アリト云古教也幸
不き民欲ヲ知事
穢擢其至道其
穢室其其穢少飛穢
アラ本寺四封其其
奉(以)公政之本其
在礼八未必不治之
上有人可慎ハ其
寺侍從分穢在
禮後速テ可居穢
ナレハの月君今也
の穢國ヲ領キハ穢

楠判官正成



道
後
の
月

先臣方合國之法會鏡
ナラントラ穢穢國を地
ヲ食テ報國ノ忠モハ
不_レハ穢也

雨後の月
養笠

楠壮五郎正行



天田屋野梅
蝶
の
の
あ
の
別
の
の
の



千谷の袖助
奴隸

誓
の
水

三國一の富士とくまの月巻



袖女見
裏不



天田屋
東六



船坂加二郎
正孝

野梅の
女見
三國



守忍庵
退羽之の前
隣の垣の土



推名九郎
長範

尾坂治部進正嘉



武備志

兵録



上野の永井の庄の庄主の
尾坂治政の庄主の
その庄主の庄主の
舟を造るに
左の子守り
代りて
その庄主の庄主の
その庄主の庄主の
その庄主の庄主の

治政の庄主の
尾坂の庄主の
舟を造るに
その庄主の庄主の
その庄主の庄主の
その庄主の庄主の
その庄主の庄主の



その庄主の庄主の
その庄主の庄主の
その庄主の庄主の
その庄主の庄主の
その庄主の庄主の
その庄主の庄主の

その庄主の庄主の
その庄主の庄主の
その庄主の庄主の
その庄主の庄主の
その庄主の庄主の
その庄主の庄主の

あつたのらういふは坂本がむきあつた
そのころの女中もあつた
あつたのらういふは坂本がむきあつた
そのころの女中もあつた
あつたのらういふは坂本がむきあつた
そのころの女中もあつた

あつたのらういふは坂本がむきあつた
そのころの女中もあつた
あつたのらういふは坂本がむきあつた
そのころの女中もあつた
あつたのらういふは坂本がむきあつた
そのころの女中もあつた

あつたのらういふは坂本がむきあつた
そのころの女中もあつた
あつたのらういふは坂本がむきあつた
そのころの女中もあつた
あつたのらういふは坂本がむきあつた
そのころの女中もあつた



田中

田中



わがことばは... (Main text block on the right page, written in vertical columns)



わがことばは... (Main text block on the left page, written in vertical columns)



わがことばは... (Text block at the bottom of the left page, written in vertical columns)

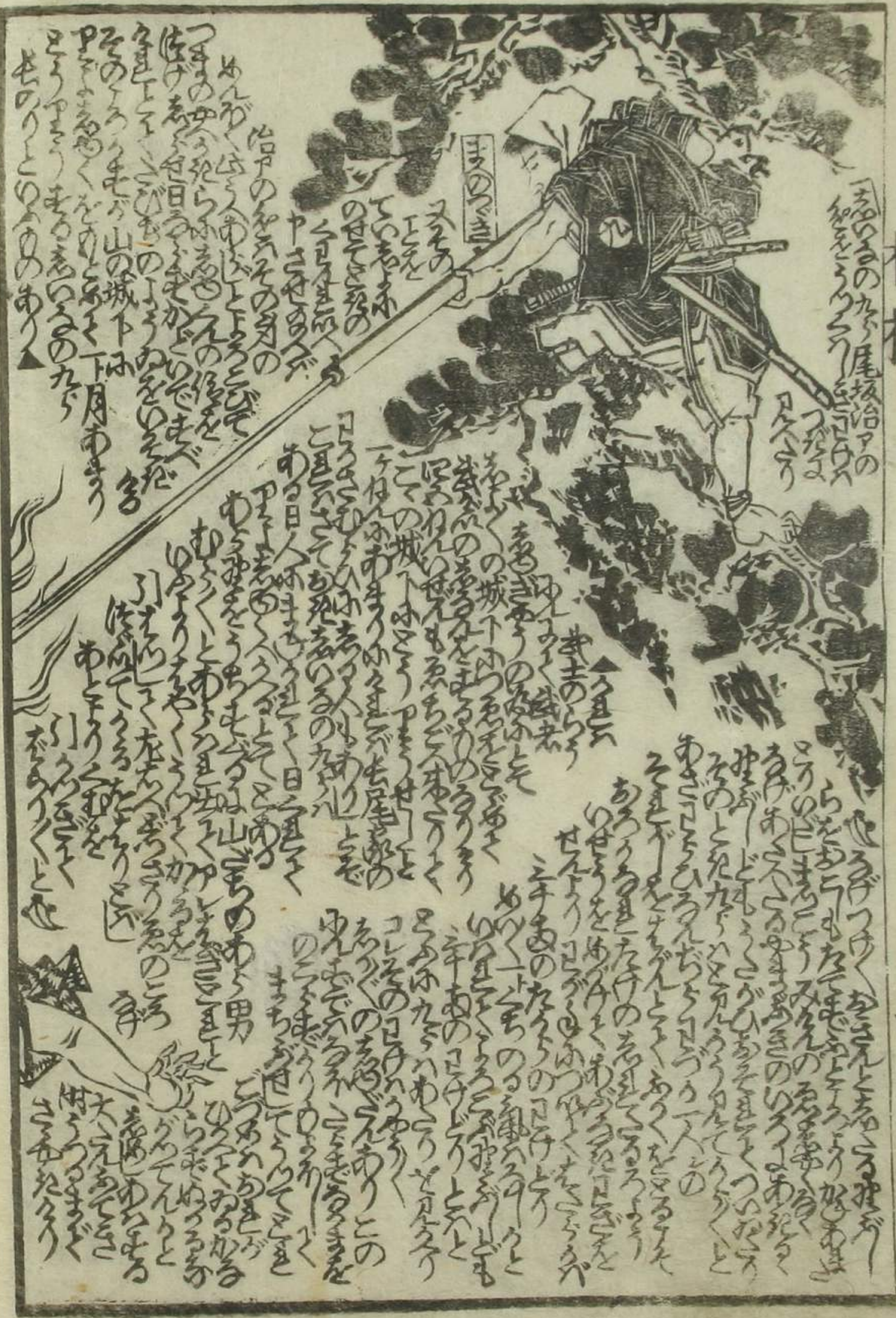






海軍

この時、尾坂治平の... 山崎の... 月夜... 戦... 刀... 槍... 旗...



尾坂治平の... 馬... 木... 戦... 刀... 槍... 旗... 月夜... 山崎の...

安のついでに... 木村のついでに... 安のついでに... 木村のついでに...



安のついでに... 木村のついでに... 安のついでに... 木村のついでに...

安のついでに... 木村のついでに... 安のついでに... 木村のついでに...

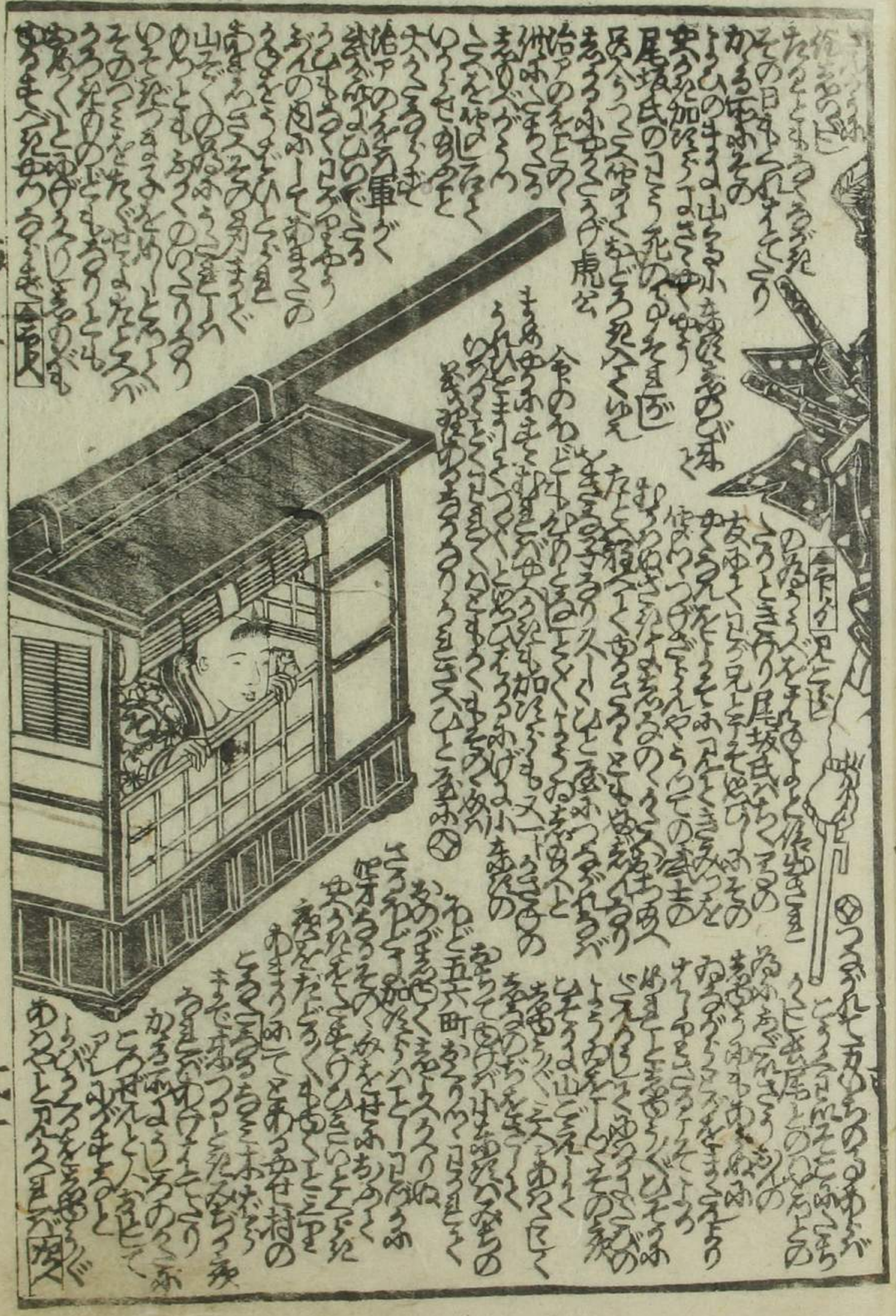


安のついでに... 木村のついでに... 安のついでに... 木村のついでに...



正のありてはそこの... 尾坂氏の... 加藤氏の... 山崎氏の... 佐々木氏の... 伊藤氏の... 渡辺氏の... 山本氏の... 斎藤氏の... 高橋氏の... 坂本氏の... 藤田氏の... 田中氏の... 鈴木氏の... 高木氏の... 山崎氏の... 佐々木氏の... 伊藤氏の... 渡辺氏の... 山本氏の... 斎藤氏の... 高橋氏の... 坂本氏の... 藤田氏の... 田中氏の... 鈴木氏の... 高木氏の...

尾坂氏の... 加藤氏の... 山崎氏の... 佐々木氏の... 伊藤氏の... 渡辺氏の... 山本氏の... 斎藤氏の... 高橋氏の... 坂本氏の... 藤田氏の... 田中氏の... 鈴木氏の... 高木氏の... 山崎氏の... 佐々木氏の... 伊藤氏の... 渡辺氏の... 山本氏の... 斎藤氏の... 高橋氏の... 坂本氏の... 藤田氏の... 田中氏の... 鈴木氏の... 高木氏の...



尾坂氏の... 加藤氏の... 山崎氏の... 佐々木氏の... 伊藤氏の... 渡辺氏の... 山本氏の... 斎藤氏の... 高橋氏の... 坂本氏の... 藤田氏の... 田中氏の... 鈴木氏の... 高木氏の...

尾坂氏の... 加藤氏の... 山崎氏の... 佐々木氏の... 伊藤氏の... 渡辺氏の... 山本氏の... 斎藤氏の... 高橋氏の... 坂本氏の... 藤田氏の... 田中氏の... 鈴木氏の... 高木氏の...

これより西の山に... 山ありて... 山ありて... 山ありて... 山ありて...



山ありて... 山ありて... 山ありて... 山ありて... 山ありて...



對姉妹

下編

馬琴作

豊国画

泉市版



作者曰 此の姉妹は、
 藤原の世に生れたるもの
 ゐりて、世を共に歩み、
 天の命に依りて、
 ...

馬琴作



此の姉妹は、
 二世の
 ...

此の姉妹は、
 藤原の世に生れたるもの
 ...

松林

柿櫻對姉妹と

草紙の後編

馬琴作
豊國画

芝神明前地本向屋
甲申孟春新版六冊合巻
和泉屋市兵衛閑鐫



海晏

十六







Handwritten Japanese text in the upper portion of the left page, including a small rectangular box with the characters 'HOTOI'.

Handwritten Japanese text in the lower portion of the left page, including a small rectangular box with the characters 'HOTOI'.



Handwritten Japanese text in the upper portion of the right page, including a small rectangular box with the characters 'HOTOI'.

Handwritten Japanese text in the lower portion of the right page, including a small rectangular box with the characters 'HOTOI'.

六日町は徳川家ゆかりの地として知られ、その歴史は古く、徳川家康が豊臣氏を打ち破った後、ここに幕府を築いた。その時、六日町には多くの家臣が移住し、その文化や習慣がここに根を扎いた。この地には、徳川家康の御廟があり、毎年、多くの参詣者が訪れる。その歴史は、徳川家の興亡と密接に関わり、その文化もまた、徳川家の文化の一部として受け継がれてきた。



この挿絵は、徳川家の家臣の生活の一コマを描いている。父と子の絆、あるいは師匠と弟子の関係を示している。徳川家の文化は、このような細やかなる生活の積み重ねによって成り立っていた。



この挿絵は、徳川家の家臣の生活の一コマを描いている。父と子の絆、あるいは師匠と弟子の関係を示している。徳川家の文化は、このような細やかなる生活の積み重ねによって成り立っていた。

この挿絵は、徳川家の家臣の生活の一コマを描いている。父と子の絆、あるいは師匠と弟子の関係を示している。徳川家の文化は、このような細やかなる生活の積み重ねによって成り立っていた。

作書曰く、
 木村の花園にて、
 花見の趣向を、
 女中が仕度し、
 主人が窓から
 見物す。

木村の花園にて、
 花見の趣向を、
 女中が仕度し、
 主人が窓から
 見物す。

作書曰く、
 木村の花園にて、
 花見の趣向を、
 女中が仕度し、
 主人が窓から
 見物す。

作書曰く、
 木村の花園にて、
 花見の趣向を、
 女中が仕度し、
 主人が窓から
 見物す。

作書曰く、
 木村の花園にて、
 花見の趣向を、
 女中が仕度し、
 主人が窓から
 見物す。

作書曰く、
 木村の花園にて、
 花見の趣向を、
 女中が仕度し、
 主人が窓から
 見物す。

作書曰く、
 木村の花園にて、
 花見の趣向を、
 女中が仕度し、
 主人が窓から
 見物す。

作書曰く、
 木村の花園にて、
 花見の趣向を、
 女中が仕度し、
 主人が窓から
 見物す。

この山は... 御旗の徳と...

家傳神女湯... 精製音應丸... 熊胆黒九子...



家傳神女湯... 精製音應丸... 熊胆黒九子... 取次所...

千形仲道... 筆研... 取次所...

馬琴作

豊国画

孝經樓詩話 北山先生著 全二冊

古今未発の詩論をいりて及と号す人
熟覧せしむる者明晃とすの書なり

詩程堂詩集 天民先生著 全三冊

先生の侍のそけいらと撰と實ま堂世の
侍の心本とある本なり

俳諧とくさ方ゆてぬゆ

俳諧の三先生の発句ま注とて物思のほた

三家方解 莊丹著 全三冊

年中の歌五百首より本とあるとて發句と
あつめたりくの龜鑑とびる本なり

三家方解

私見世に伝前より書物教高貴仕事ら悲吟
目撃餐昌は雅有仕合ま存の存とて我ら吟味仕
直尾のあつめたりくの龜鑑とびる本なり

取遣 通用案書 重田九案文 全三冊
高橋氏之書

取遣の取状よりの中へ月の文とを
本よりあつめたりける用文章章なり

近道 算筆早中次 重田九案文 全一冊
見治助著

上の履と日月の文章 漢文下へふら死
お物りの算筆法をいふ事の手引本なり

修身往來 全一冊

江戸高貴性本の中へとてさあるること
まじりく入月の文章をあらわたり

江戸年中行事 小本一冊

お江戸年中行事をいふ本に附録日花を
風月の名所をいふ本とてあつめたり

西本の書

西村源六

江戸本石町十軒所

八拾二

五